様式2

美幌版総合戦略に係る事業実施結果報告

（各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略4<差し替え>

No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額 予算額		③ 本事業における重要業績評価指標（KPI）					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います	⑦ 事業費総額（①）の内訳※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います	⑧ 指標値に対するH27実績値の内容	⑨ 外部有識者からの評価		⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について	
			過年度	実績額	指標		指標値	単位	目標年月	H26実績値	実績値	事業効果				事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
			後年度	予算額															
1	空き店舗活用事業	空き店舗を活用して新規企業・チャレンジショップ支援などを行い、街中に賑わいや活力を創出する。（空き店舗の月額家賃（上限8万円）の2分の1を、町と商工会議所が1年間補助）	26年度	0	指標①	空き店舗活用件数	2	件	H28.3	0	0	地方創生に効果がなかった	実は無かったものの当該制度を維持することで、空き店舗の活用が推進されるものと考える。（問合せ・相談も0件）				・問合せは何件くらい合ったのか。 ・空き店舗情報があるなら、ネットなどで公表して誰でも見られるようにしたらどうか。	事業の継続	空き店舗の解消を促進することにより商店街の活性化が図られるため。
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	480,000	指標①	空き店舗活用件数	2	件	H29.3										
			H29年度	480,000	指標①	空き店舗活用件数	2	件	H30.3										
2	消費喚起プレミアム商品券発行事業	北海道と連携しプレミアム商品券を発行することにより地域の消費喚起を図る。 一般向けとして、プレミアム率30%の商品券を発行。（スマッピーカードチャージ額10,000円で3,000円分の商品券）	26年度	8,326,000	指標①	商品券利用率	95	%	H28.3	利用率99.1%（事業名）びほろ消費拡大セール事業	99.5	地方創生に非常に効果的であった	町内商店の利用を促すため、プレミアム商品券を発行。 99.5%の利用率からも十分な消費喚起が図られた。	プレミアム商品券発行補助金 22,031,653円 プレミアム商品券発行事業事務委託料 2,870,518円		総合戦略のKPI達成に有効であった		事業の継続	商店街の活性化により、商工業者の所得向上が図られるため。
					指標②														
			27年度	24,902,171	指標③														
			H28年度	6,150,000	指標①	商品券利用率	95	%	H29.3										
			H29年度	5,400,000	指標①	商品券利用率	95	%	H30.3										
3	住宅リフォーム促進事業	住宅の改修に要する費用の一部を助成することにより、町民が安心して暮らすための居住環境の整備、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る。 ・50万円以上の改修工事に対して、費用の20%以内（限度額50万円）を助成	26年度	42,512,000	指標①	制度利用件数	134	件	H28.3	129	134	地方創生に相当程度効果があった	平成23年度から実施した当該事業は、平成27年度までの5年間で、715件、約17億4千万円の工事契約高を積み上げており、住環境の整備並びに地域経済の活性化に寄与したものと考えている。	補助金：42,791,000円	そもそも指標値を設定すること自体馴染まないものと考えているが、当面100～150件/年程度の一定の需要を見込んでおり、その幅の中で年度により実績値にバラツキがあることはやむを得ないと判断している。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・この指標で問題ないと思われる。 ・住環境の整備、地域経済の活性化を図る上からも、事業の継続実施に努めてもらいたい。	事業の継続	本事業により、居住環境の整備が促進されるため
					指標②														
			27年度	42,791,000	指標③														
			H28年度	72,600,000	指標①	制度利用件数	158	件	H29.3										
			H29年度	47,190,000	指標①	制度利用件数	130	件	H30.3										
4	ワンコインバス、乗合タクシー等利用促進事業	地域住民の足となっている路線バス、ワンコインバス及び町が運行する混乗スクールバス等の維持確保や利便性向上に努めながら、公共交通の確保・維持を推進する。	26年度	17,811,000	指標①	利用者数(H26.10～H27.9)	37,000	人	H27.9	35,615	31,652	地方創生に相当程度効果があった	人口減少に伴う全体の利用者減少や美幌校高線を利用する生徒利用の減少も影響している。 減少割合と指標減少割合が大きく乖離している要因には、高めの目標値が設定されていること。また吹雪など運休が多かった年では全体の利用数が減る。こうした状況に町は、地域要望から美園団地にバス停を変更したり、野崎団地の経由便を増やして利便性改善の実現しているが、全体利用者の漸減傾向に歯止めがかけられてない。 今後も状況を見極め、要望等に応えられる改善は引き続き継続する。 この事業は、民間バス事業者が主体で、国と町の補助金でバス会社の路線維持確保を支援しているもので、本来であればバス会社等がより一層の自助努力や改善に期待をしたいが、現実として運転手確保が慢性的に難しく、運行増便や新たな路線は困難である。 現在バス利用者の多くが高齢者や学生が中心で、今後は限られた世代層以外の新たな利用者開拓を、バス会社と一緒に検討していくことが必要と考える。	26年度） 生活バス路線運行維持費補助金 18,723千円 ・阿寒バス： 市内循環線 8,355千円 ・網走バス： 網走ー美幌線 3,404千円 ・北見バス： 北見ー美幌津別線等 6,052千円 ・北交ﾊｲﾔｰ： 乗合ﾀｸｼｰ 912千円	利用者数（地域内フィーダー系統） ・市内循環線 29,791人 ・美幌校高線 4,104人 ・乗合タクシー 1,720人 計 35,615人		「人口減少に伴う全体の利用者減少」について、指標値に対して実績値は17%減少だが、人口減少が17%減になっているわけではないので、別の原因があると思われる。利便性や経路の問題ではないのか。また、⑦と⑧の26年度実績を教えて欲しい。	事業の継続	利用実態の検証と住民ニーズを把握しながら、利便性の向上と利用促進を図る。
					指標②														
			27年度	18,109,290	指標③									27年度） 生活バス路線運行維持費補助金 18,110千円 ・阿寒バス： 市内循環線 6,872千円 ・網走バス： 網走ー美幌線 3,410千円 ・北見バス： 北見ー美幌津別線等 6,787千円 ・北交ﾊｲﾔｰ： 乗合ﾀｸｼｰ 1,041千円	利用者数（地域内フィーダー系統） ・市内循環線 26,281人（前年比△12%） ・美幌校高線 3,681人（ 〃 △10%） ・乗合タクシー 1,690人（ 〃 △ 2%） 計 31,652人（ 〃 △11%）				
			H28年度	19,623,000	指標①	利用者数(H27.10～H28.9)	39,000	人	H28.9										
			H29年度	22,850,000	指標①	利用者数(H28.10～H29.9)	36,000	人	H29.9										
5	美幌町まちづくり活動奨励事業	住民自らの知恵と行動により、まちづくり諸活動を奨励するもの。自治会や団体・組織を対象に地域の公共的課題を自主的かつ継続的に取り組む事業に支援し、その活動継続と発展を図るもの。	26年度	200,000	指標①	事業の利用件数	3	件	H28.3	1	2	地方創生に相当程度効果があった	町民団体等が主体の事業に対して補助する提案事業型の補助金である。町民主体のまちづくりに効果があったと検証する。 指標値を下回った理由に、年間予定しているソフト事業が2件分、ハード事業が1件分であるが、当該年度においてソフト事業2件のみで、ハード事業は申請が無かったため。	補助金額： ①「バブルサッカー大会IN美幌」 205,000円 ②「びほろ元気なまちづくり講演会」 440,000円 計 645,000円	①「バブルサッカー大会IN美幌」・・・ 美幌では新しい スポーツイベントである“バブルサッカー”が開催でき、町民をはじめ町外の方とも交流する機会ができ、話題性による美幌町への集客で、観光・宿泊飲食への効果も期待できる。 ②「びほろ元気なまちづくり講演会」・・・実施のメンバー達は、異業種交流や将来へのまちづくりに資する人材育成につながる。また講演会自体は、広く町民に波及効果。			事業の継続	町民による自発的なまちづくり活動はこれからも重要であり、この活動に対する町の補助が必要であるため。
					指標②														
			27年度	645,000	指標③														
			H28年度	2,000,000	指標①	事業の利用件数	3	件	H29.3										
			H29年度	2,000,000	指標①	事業の利用件数	3	件	H30.3										
6	美幌町まちづくり参画プロジェクト	地域の学校を活用し、学生ならではの意見・アイディアによるまちづくり活動に支援することで、地域の未来を考え、まちづくりへの意識向上を図り、地元に残る若しくは帰ってくる学生を育成する。	26年度	0	指標①														
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	684,000	指標①	プロジェクト件数	1	件	H29.3										
			H29年度	1,000,000	指標①	プロジェクト件数	2	件	H30.3										
7	地域おこし協力隊事業	都市地域から「地域おこし協力隊員」を募集し、一定期間、地域に居住して、地域のさまざまな課題について協力活動をしてもらい、地域への定住・定着を図る。	26年度	0	指標①														
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	1,710,000	指標①	地域協力活動案件数	2	件	H29.3										
					指標②	協力隊員数	2	人	H29.3										
			H29年度	1,523,000	指標①	地域協力活動案件数	2	件	H30.3										
					指標②	協力隊員数	2	人	H30.3										

No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額 予算額		③ 本事業における重要業績評価指標（KPI）					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います	⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います	⑧ 指標値に対するH27実績値の内容	⑨ 外部有識者からの評価		⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について	
			過年度	実績額	指標		指標値	単位	目標年月	H26実績値	実績値	事業効果				事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
			後年度	予算額															
8	人材バンク事業	美幌町に縁があり、文化、芸術、スポーツ、経済界などで特技や資格を持った人材をリスト化し、まちでの行事や学習などで活躍してもらう。	26年度	0	指標①														
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	－	指標①	－													
			H29年度	－	指標①	－													
9	ICT教育環境整備事業	町内の小中学校でICT（情報通信技術）を活用し、確かな学力を育成する教育を推進します。	26年度	6,902,126	指標①	国の整備指針に基づくICT機器必要数	4	校	H28.3	1	4	地方創生に相当程度効果があった	国の整備目標に準じて普通教室に大型モニター、実物投影機のICT機器を小学校1校に先行整備したところ、授業で活用する機会が大幅に増え児童への教育効果も高まった。	小学校機械器具： 2,973,000円 中学校庁用備品：11,656,000円	大型モニター、実物投影機、プロジェクター、コンピュータ機器			事業の継続	整備計画に基づきICT機器を充足し、児童生徒の学力向上を図る。
					指標②														
			27年度	14,629,000	指標③														
			H28年度	17,477,000	指標①	国の整備指針に基づくICT機器必要数	4	校	H29.3										
			H29年度	17,995,000	指標①	国の整備指針に基づくICT機器必要数	3	校	H30.3										
10	少人数学級推進事業	きめ細かな学習指導環境を整えることを目的に、各小学校の全学年で35人学級を実現すべく、期限付教諭を任用する。	26年度	8,720,196	指標①	町費負担教員	2	人	H27.4	2	2	地方創生に非常に効果的であった	すべての小学校の全学年で35人学級の実現ができたことにより、一人一人のの児童にきめ細かな指導を行うことができた。	社会保険料：1,248,918円 臨時職員賃金：8,138,304円 健康診断委託料：26，438円				追加等更に発展させる	今後も未来を担う子どもたちの学力向上を図るため、教育環境の整備を推進していく。
					指標②														
			27年度	9,413,660	指標③														
			H28年度	15,268,000	指標①	町費負担教員	3	人	H29.3										
			H29年度	5,518,000	指標①	町費負担教員	1	人	H30.3										
11	学力向上支援事業	一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図ることを目的に、小学校教育支援員を配置し、習熟度別学習を実施する。	26年度	0	指標①														
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	3,809,000	指標①	教育支援員	2	人	H29.3										
			H29年度	5,614,000	指標①	教育支援員	3	人	H30.3										
12	博物館との連携事業	博物館の学芸員と教諭との連携により、美幌町の自然体験や観察会、工作教室を実施し、地域への郷土心の養成と特色ある授業を実施する。	26年度	0	指標①	連携事業実施校	5	校	H28.3	4	5	地方創生に効果があった	博物館との連携による体験学習により、地域資源を活用した学校教育の充実が図られた。					事業の継続	今後も地域資源を活用した博物館との連携事業を推進していく。
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	0	指標①	連携事業実施校	5	校	H29.3										
			H29年度	0	指標①	連携事業実施校	5	校	H30.3										
13	学生ボランティア学習サポート事業	夏季・冬季の長期休暇中の小中学生に東京農業大学の学生が勉強を教え、児童・生徒の学力向上を図る。	26年度	156,380	指標①	学習サポート事業実施校	5	校	H28.1	5	5	地方創生に非常に効果的であった	学生ボランティアによる長期休暇中の学習サポートを行うことにより、学力向上と学習習慣の定着が図られた。	報償費：19,800円 食糧費：64,800円 保険料：12,800円			KPIは「学校数」ではなく「学習サポートを受けた生徒数」にすべきと考える。	事業の継続	今後も基礎学力の向上と学習習慣の定着を図るため、学習サポート事業を継続していく。
					指標②														
			27年度	77,350	指標③														
			H28年度	447,000	指標①	学習サポート事業参加人数	2,000	人	H29.3										
			H29年度	447,000	指標①	学習サポート事業参加人数	2,000	人	H29.3										
14	国際交流事業	平成4年からﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ地区と友好姉妹都市の関係が継続され、両地域における人材派遣として「高校生短期交換留学」を実施。 さらに隔年でｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ高校から短期留学の受け入れも行う。	26年度	294,102	指標①	留学生（美幌高校）の人数	2	人	H28.3	1	2	地方創生に相当程度効果があった	美幌高校からケンブリッジ高校へ短期留学を予定である2名派遣することができた。ケンブリッジ高校への留学実施で、美幌と友好姉妹都市である地域との人的交流が継続でき、生徒自身においても将来を考える機会となり、事業効果はあると検証する。	国際交流事業消耗品 5,140円 （留学レポート・写真の展示用） 高校生短期交換留学事業負担金 715,115円 内訳）・渡航費用（高校生2名） 398,000円 ・授業料等 （ 〃 ） 317,115円	平成27年7月22日 出発～ 8月12日 帰町 留学先：友好姉妹都市ケンブリッジ(NZ)のケンブリッジ高校 留学生：美幌高校普通科2年、3年の 女子生徒2名 留学内容：year11レベル（高校1年程度）の授業を受ける 日本の高校とは授業形態や生徒の積極性の違いを体験。この経験が帰国してから生徒自身の積極性を意識する切っ掛けとなった。英語の勉強に一層意欲。帰国レポートを提出済。			事業の継続	国際社会に対応する人員の育成は今後も必要であるため。
					指標②														
			27年度	720,255	指標③														
			H28年度	829,000	指標①	留学生（美幌高校）の人数	2		H29.3										
			H29年度	1,047,000	指標①	留学生（美幌高校）の人数	2		H30.3										
					指標②	ケンブリッジ訪問団の来町人員	6		H30.3										
15	防災対策事業	美幌町の地域に関わる防災に関し、災害予防を実施するにあたり、防災資機材を計画的に整備する。また、町民の防災意識の向上を図ることを目的に、地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施、家庭用備蓄の普及啓発など、防災体制の強化を図る	26年度	※	指標①	－	－	－	－			地方創生に相当程度効果があった	自治会連合会による訓練などをとおして、未設立自治会への働きかけなど、積極的な取組みにより、平成27年度、1自治会において自主防災組織の設立に至った。	・防災無線保守点検 422千円 ・防災情報配信システム保守業務委託 540千円 ・避難所等AED借上料 192千円 ・備品購入費（防災用タブレット） 517千円 ・備品購入費（携帯型無線機セット） 592千円	自主防災組織結成の促進が図られた。 ※平成26年度は、防災関係の予算を一括りにしていたため、「防災対策事業」としての実績額は出せない。（防災関係総額で約1,600万円）		KPIと事業内容に乖離が見られるので、KPIを「防災リーダーの人数」とするか、範囲が広いので細分化してはどうか。	事業の継続	今後も継続して事業をすすめ、防災・減災対策の強化を図る。
					指標②														
			27年度	7,049,000	指標③														
			H28年度	15,200,000	指標①	防災訓練参加者数	100	人	H29.3										
			H29年度	15,343,000	指標①	防災訓練参加者数	100	人	H30.3										
16	自主防災活動推進事業	各自主防災組織において、災害時に備えた設備を整えるとともに、町民と関係機関が連携した自主防災訓練及び地域避難訓練を実施し、日頃の防災意識の向上と防災体制の強化を図る。また、未設立団体への積極的な働きかけを行い設立、促進を図る。	26年度	※	指標①	自主防災組織の結成率（H31）	73.75	%	H32.3	66.20%	66.70%								
					指標②														
			27年度	0	指標③														
			H28年度	250,000	指標①	自主防災組織の結成率	73.75	%	H32.3										
			H29年度	850,000	指標①	自主防災組織の結成率	73.75	%	H32.3										